

## 南アフリカ共和国～アパルトヘイトを超えて

東京都練馬区立大泉中学校 彦坂好郎

地理

歴史

公民

地図

社会科

## 南アフリカ共和国について

南アフリカ共和国は、アフリカ大陸最南端に位置し、人口4823万人、日本の約3.2倍の面積の国である。国土の大半は1000m以上の標高にあり、首都プレトリアや中心都市ヨハネスバーグなどでは約1800mの高台に位置する。このため夏でも平均気温は約19℃と過ごしやすい。

## 人種隔離政策「アパルトヘイト」

この国では1948年以降、2割にも満たない少数の白人が政権を担い、8割以上の黒人ほか有色人種（非白人）に対し差別政策を行った。この政策をアパルトヘイトと呼び、人種別に居住地域を定めるなど数百の法律で非白人の生活を統制した。

この政策によって非白人に与えられた土地は大部分が不毛の地であり、白人地域に歩いて出稼ぎに行かざるを得なかった。現在もヨハネスバーグの「Soweto=ソウェト」などが、元黒人居住区として存在する。定められた居住区では日中、パス（身分証明書）の携帯者のみ都市に移動が許され、夕方6時には居住区へ戻らなければならなかった。パス不携帯は即禁固刑。逃げたり口答えをすると、容赦なく棒でぶたれたという。

また非白人は白人の教育を受けることができず、アフリカ系の教育のみ許された。このためアパルトヘイトが廃止された現在でも、国民の大半は、日本では当たり前に行われている数学などの近代教育を受けておらず、この国の負の遺産として深刻な影響を残している。

## アパルトヘイトを超えて

アパルトヘイトは、ANC（アフリカ民族会議）の努力もあり、1994年完全に廃止された。それから17年、南アフリカ共和国は確実に変化している。かつて非白人と呼ばれた人々の中でも、政治経済のあらゆる分野で活躍し豊かに暮らす人々が増加している。旧黒人居住区であるSowetoなどでも、3DK以上の建売住宅が整然と並び、休日には自家用車で巨大ショッピングモールへ出かけるなど、豊か

な生活をする人々も増加している。一方、失業率は25%前後で停滞し大多数の国民は貧困の中にいる。電気・水道、トイレもない生活を強いられる最貧層の国民も数多く存在する。



日本人学校と現地の子どもの交流の様子が写っている。電気・水道、トイレもない生活を強いられる最貧層の国民も数多く存在する。

ところがこの国の人々は明るい。どんなに貧しくても街の至るところで笑顔が絶えない。スーパーマーケットでは、人々は気軽に挨拶を交わし笑顔で話しかけ、みんなが友達だ。

アパルトヘイト廃止当時、国民の大多数は、白人に対して憎悪の固まりであった。非白人は、約半世紀の間、トタンでつくられた床も電気も水道もないウサギ小屋のような家に隔離され、日常のすべての時間、自由に生きる権利を奪われていた。アパルトヘイト後、非白人の人々には復讐という言葉しかなかった。

しかし、当時のANCのリーダーはすべてを許した。アパルトヘイト廃止後、初の黒人大統領となったネルソン=マンデラである。彼はアパルトヘイト廃止を訴え、ケープタウン沖合のロベン島などに27年間監禁されたが、その廃止後全国に広がる白人排斥のうねりを否定した。白人も非白人もなく、すべての国民で平和な国をつくりあげようと呼びかけた。「復讐からは、何も生まれない」。マンデラのその思いに人々が共感し、新たな国づくりが始まった。

この国の人々は、すべてを許したのである。

人々の笑顔の理由がここにある。今、人々は底抜けに明るい。どんなに貧しくても、自信を持って生きている。それから17年。多様な民族が共存しあう「虹の国」（レインボーネーション）という大きな目標を持ち、この国は新たな一歩を踏みだし始めている。